

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1071100232		
法人名	株式会社いずみや		
事業所名	グループホーム森の家		
所在地	群馬県安中市安中1丁目10番17号		
自己評価作成日	平成23年3月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/">http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	平成23年3月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者一人ひとりの生活リズムを尊重した運営を基本に考えたうえで、その人達が健康で楽しい毎日を過ごせるように日中帯は広いホールを活かしてリハビリ体操や歩行訓練など実施して下肢筋力の向上を図る。また、家事手伝いレクリエーション等で手先や脳を活発に働かして生活してもらえよう考え、居室で寝たきり、孤立しないよう日常生活を支援している。また、レストラン等で食事を楽しんだり、外出する機会を増やし地域の人達とのふれあいを支援している。緊急時には隣接する消防署職員が1分以内に駆けつけてもらえる環境下でもある。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームとして力を入れているところは、利用者の筋力低下を防止するために日中は活動を心掛け、外出等を多くしている。その結果介護度が軽くなるという成果が表れている。利用者の生活する姿は自然体でそれを支えている職員にも力みがない。そのため各人の能力を生かした作業が出来ている。利用者はうどん作り、おやき作り、料理の手伝いなどを日常的に行っている。利用者がただサービスを受けているのではなく、毎日の生活で作業を通して参加しているため、生き甲斐を持って、職員と共に生きていることが伺えた。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の介護を通して理念の共有に努め実践に向け取り組んでいる。	理念は事務所に掲示されている。月に1回の会議時や申し送り時に理念の徹底を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域老人会の踊りや歌の慰問交流、地域のお祭りや侍マラソンの応援見学等に参加している。地域の方々が利用者の方に気さくに話しかけてもらえる機会をつくっている。	老人会の方々に声をかけ、年に数回慰問に来てもらっている。高校生・介護相談員の来訪や、遠足マラソンの応援、神社のお祭り、防災フェスティバル等で地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高等学校で行っているホームヘルパー実習の受け入れ協力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の家族・地域の住民・介護相談員・市役所職員などに参加して頂き、意見や要望を聞いている。希望・要望が有れば直ちに実行しサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度開催し、利用者・家族・地域住民・介護相談員・行政の参加がある。家族全員に開催案内を通知している。行事報告・消防署員によるAED講習会等を行い意見交換がされている。	定期的で開催されているが、行政の参加が2回確認できなかった。行政への依頼を続けてほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所で行われる検討会議に出席している。また、不明な点、質問などは介護高齢課担当者のアドバイスを頂いている。	月に1度の安中市内の事業者・行政が参加する研修に出られる時には参加している。介護相談員の受け入れや、ケアマネジャーが代行申請を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止についての研修会に順次参加したり、職員会議でも話し合い理解し、玄関は施錠せず見守りに最重点をおいている。出来る限り身体拘束のないケアを行っている。	施錠はされていない。身体拘束に関しては職員が話し合い、県の研修にも職員が交代で参加し共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加をし学ぶ機会を持っている。職員は勉強会を通し虐待防止について意識を高める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各研修会の中で、地域権利擁護事業や成年後見制度について説明があった時には、職員会議や申し送り等にて他職員にも伝達する機会をもうけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、重要事項説明書等にて十分な時間を設け、家族の方に解り易く説明し理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者一人ひとりの状態や場面に合わせ、話しやすい雰囲気や設け、意見・不満・苦情に耳を傾けている。苦情受付窓口を設置している。また、家族との面会時にご意見苦情も伺い改善をする。	本人や家族に「遠慮なく言ってください」と話している。家族からは「動物と触れ合わせてほしい」等の要望がでてくる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日頃の業務の中で、職員からの意見や要望を聞き検討し業務の向上を図る。	職員会議や勉強会などで取りあげて話し合っている。希望休も叶うように勤務表を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスの要件等を整備し、各職員の実力を把握し、それに見合った給与水準や職務権限を与え、やりがいや向上心を育てる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修は職員の実力に応じ参加を促す。社内研修は定期的に行いケアの質向上を図る。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着サービス連絡協議会に加入し交流を図っている。また、西部ブロック研修に参加し情報交換をしている。市内の同業者に交換・見学研修をお願いし実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の生活状況を詳しく聞き、必要があれば何度でも面会し、本人の様々な言動を受け止め、初期の段階で信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日頃から家族と相談しながら、不安等を解消できるよう努めている。特に入所当時は詳細に現状報告するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族より生活状況を聞きとり、適切で安心したサービスを受けられるように配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の得意な事、好きな事を一緒に行いながら、教えたり教えてもらったり、同じ目線に立ち共に暮らすという気持ちを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況に応じ家族と職員が協力し合い、家族の方と一緒に病院付き添いや外出・外泊希望など家族との協力関係に努める。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人との電話や手紙での交流や友人との面会など支援している。	家に帰って宿泊してきたり、在宅時代のペン習字を続けたり、女性としての身だしなみ等の作法を大事にし、職員も支援している。外に出ていく人には落ちつくまで一緒に外に出て歩いたりしていた。電話や手紙の支援をしている。面会は24時間対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の工夫や全員で進んで行える様々なレクリエーションを行ったり、互いの作業を助け合い出来るような雰囲気作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても本人の様子を伺い、関係を断ち切らない付き合いを大切に、家族からの相談があればフォローしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、本人から聞きだせるよう努めている。利用者一人ひとりの意向や、言葉使いに合わせた会話の工夫をしている。	利用者との日頃の会話の中で職員は意向の確認をしている。家族面会時に家族の意向も確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴や、なじみの暮らし方を家族より詳しく聞きとり、個別ケア日誌等に区別して把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り時、職員会議などで、利用者の心身状態と現状確認などの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員の意見を聞き、状態の変化に応じ3ヶ月に1度見直しを行い適切な計画作成をしている。	毎月のモニタリングを基にして、3ヶ月に1度の介護計画の見直しを行い、現状に即した介護計画の作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア日誌にバイタル・食事量・排尿・排便チェック等、細かく記入しており、各職員と情報を共有し介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じた柔軟な支援を提供するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方達との交流を大切にし、ボランティアとの交流や学校で指定する研修先として協力しあっている。研修先の生徒さんによる踊りや歌などで楽しい機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する医療機関を定期的に受診している。協力病院の医師による往診は月2回受けている。	原則、本人の希望でかかりつけ医を協力病院に代えることができる。協力病院より月に2回の往診支援がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックや全身状態の把握を徹底し、体調の変化を見落とさないよう注意し、医療機関との連携を図り適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は交代で職員が面会し、医師や看護師との情報交換も行い、早期退院に向け話し合いをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、その都度状況に応じて家族・主治医と相談している。	重度化や終末期に関しては事業所としては今のところ考えていないため看取りに対しての指針はないが家族の意向の確認はしている。事業所の方針を準備している段階である。	事業所として終末期にできることとできないことを明記した指針の作成を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に隣接する消防署監修のもと、心肺蘇生訓練等を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画に基づき、年2回の避難訓練・誘導訓練を利用者と共に消防署監修のもと行っている。消防署の要請による施設火災想定訓練参加協力も行い、家族の方も都合がつけば避難訓練に参加して頂いている。	年に2回総合訓練と夜間想定防災自衛訓練を行っている。通報訓練避難誘導を夜勤想定で職員が一人ずつ訓練している。水・缶詰・レトルト食品・オムツの備蓄がある。	利用者と職員が避難経路等を身に付けられるように自主訓練の増加をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の居室へ入る時や排泄時の声かけ、細かな気配りに努め、利用者のプライバシーを考慮している。	利用者同士が楽しそうに会話していた。排泄介助等では各人のできることに添った声かけをしている。リハビリ等も個人のその日の気分・体調を考慮して自由にしてもらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの思いやりや希望を表せる工夫や雰囲気作りをし、自己決定をして頂けるような声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その時の状態や気持ちを尊重して、出来る限り個別に支援を行い、職員はその人の考えを理解し、その人の希望を尊重するように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容などは利用者の希望を聞き入れ、身だしなみやおしゃれを楽しんでもらえるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの残存能力を見極め、利用者の「出来る事・やりたい事」を奪わないよう見守りながら、食事の準備や後片付けを出来る限りお願いしている。	肉・魚・野菜のバランスのとれた献立を職員が立てている。利用者と職員は同じテーブルと一緒に食べているが職員はお弁当を持参している。利用者はうどん粉をこねたり、包丁を使ったり、テーブル・食器拭き等を手伝っている。おやつ作りや外食には3ヶ月に1度程度出掛けている。	職員と利用者が準備した食事を一緒に食べながら、美味しい・美味しくないを共有し食事を楽しめる支援を強化してほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は摂取状況を毎日記録し、その人の状況に応じたおかずの刻み方、メニューや量を増減している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後その人にあった口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを記録し、タイミングの良い声かけを心がけている。表情やしぐさなどの変化を見極め、不快の無いよう支援している。	パット等は事業所でまとめ買ったものを使用し、処理は業者に出しているが処理代金は請求していない。排泄パターンの把握やその人なりのそわそわ感を把握してトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録等にて職員全員が一人ひとりの状態を把握し予防に努め、食事・水分量のバランスに注意する。時には主治医の処方による内服薬にて対応する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には月曜日・水曜日・金曜日の午後が入浴日であるが、利用者の体調状況や希望に応じ入浴するタイミングを計る。入浴日以外は体調に応じて足浴にて対応する。	月・水・金の午後入浴できる体制になっている。1年前は週2日(月・金)だったが、水曜日を追加した。1日平均6人程度入浴し、入浴日には勤務者を増やしている。ゆず湯等の楽しみがある。	前回の外部評価を受け止めて入浴日が増加した。今後も入浴日設定をしない入浴支援に向けて頑張ってもらいたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活リズムを把握し、就寝前の水分補給と投薬を行い、徐々に静かなリラックスした雰囲気をつくり、その人のタイミングで布団に入って頂き安心して眠りにつけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	朝・昼・夕寝る前と薬を分け、職員全員が解り易い状態にしておく。また薬の目的・副作用・用法・用量を理解しやすいように見易くファイルしている。服薬の変更は申し送り時や連絡簿にて確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝いやカレンダーの日めくり、お花見や外食の機会等、気分転換を出来るよう支援している。希望の趣味・嗜好が有れば出来る限り協力をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望が有れば可能な限り、その人の希望を叶えるよう支援している。普段行けない場所等も本人・家族から要望が有れば職員の確保が可能な限り支援する。	日常的に散歩や近隣への行事参加、外食などに出かけている。慰問等はなるべく寒い冬に来てもらい、暖かい時期は外に出るように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望に応じて、買い物等に職員が同行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話も手紙も希望があれば常に対応している。家族に送る手紙は年3回程度出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は常に清潔に保たれ、室温・湿度にも十分に気を配り居心地の良い空間作りをしている。その季節に咲く花など飾り季節を感じてもらえるように工夫している。	明かり採りからの光は心地よい明るさになっている。回廊式の作りで、共有スペースが二ヶ所あり、テレビ・テーブル・椅子が配置され、静かな所を好む人は、違う場所で過ごすことができる。早咲きの桜の花が飾られ、おひな様のはり絵で季節感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールには椅子とテーブルを用意し、北側ホール、南側ホールどちらでも自由気ままに過ごしてもらっている。職員事務所の出入りも自由なので、事務所で職員と話したい方にも対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具やぬいぐるみ等、好きなものを使い慣れたものを持ち込んで頂き、その人が居心地良く過ごせる空間づくりをしている。	居室にはベッドや藤のテーブルや椅子、本棚や衣装ケース、身の回り品が置かれ生活しやすい居室作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーとなっており安全にゆつたりとしたスペースを移動できるように配慮している。その人が出来る事、出来そうな事を探し、出来る範囲で食事作りや洗濯物たたみ等をお願いし、自立した生活が出来るよう支援している。		